

神田外語大学

グローバル・リベラルアーツ学部年報

2020（令和2）年度

令和3年9月

「グローバル・リベラルアーツ学部年報」刊行にあたって

「グローバル・リベラルアーツ学部年報」(以下「年報」)は、2021年4月に設置されたグローバル・リベラルアーツ学部(以下「本学部」)について、その設置に向けた準備から学年進行(4年間)期間における教育活動、研究活動、国際交流活動、施設・設備及び管理運営の状況等の記録を取りまとめるものです。

この年報では、本学部の文部科学省への届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載の内容に基づき、その進捗(自己点検・評価の観点を含む)を主な内容として記録して行きます。2020年度においては、以下のような取り組みを中心的行いました。

本学部の「本学の建学の理念を踏まえ、高度な英語運用力と幅広い教養を身につけ、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材を育成する」という設置趣旨のもと、ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーに基づく教育課程の編成に努め、計画どおり令和3年4月から教育を開始しました。

入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を確認するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、海外経験特別選抜、一般選抜、共通テストプラス入試及び共通テスト利用入試の6つの方式で入学者選抜を計画どおり実施し、ほぼ定員どおり(令和3年度は59名)の入学者を得ました。

教育の柱となる初年次に行う海外スタディ・ツアーが新型コロナウイルス感染症の影響のため、海外での実施が困難となりましたが、2020年度内に国内研修施設での宿泊型オンラインプログラム「海外スタディ・ツアー2.0」を開発し、教育効果の維持・向上に努めました。

教育成果の可視化を目的として、Salesforce社のEducation Cloudを基盤としたe-ポートフォリオ(KUISポートフォリオ)の開発に努めました。

以上のような取り組みを大学改革室が取りまとめ、ここに刊行する運びとなりました。ご協力いただいた皆様のお陰であること、心から御礼申し上げます。

2021年9月

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部
学部長 ロバート デシルバ

目次

I. 理念・目的	1
II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組	3
1. 入学者選抜の方法等について	
2. 入学者選抜の状況について	
III. 教育課程編成の取組	7
1. 教育課程の編成について	
2. 教員の組織体制について	
IV. 学生支援の取組	25
1. 学習支援の取組について	
2. キャリア支援の取組について	
V. 管理運営の取組	32
1. 情報公表の取組について	
2. 教育内容等の改善を図るための取組について	
3. 管理・運営体制について	
4. 施設・設備について	

I. 理念・目的

2021年4月に設置された、グローバル・リベラルアーツ学部設置の趣旨・必要性は、『文部科学省に設置届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」』（以下「設置の趣旨等を記載した書類」という。）に次のとおり記載している。

2013年5月の教育再生実行会議の提言「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」においては、「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成すること」が求められた。

また、2019年5月の同会議の提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」においても、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急激に進展し、Society5.0の基盤となるAI、IoTなどの技術の開発に関する国際的な競争が激化する中で、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することが求められている。

一方、今、地球上では、依然として紛争は収束せず、安全保障や通商摩擦、宗教対立、移民・難民問題、地球温暖化や新型感染症をはじめとする様々な解決困難な課題が噴出ししている。他方、日本国内でも、アジア諸国を中心とするインバウンドの爆発的増大など、一昔前の欧米が基軸であった対外関係から考えられなかったようなグローバルな状況が展開している。

このような現代社会では、多様な価値観や考え方を相互に理解し尊重しながら、共生を図って行くことなしには、平和と安定、発展はあり得ないと考える。わずかなコミュニケーション・ギャップにより、意図しない、人類にとって悲惨な結果が起きることが否定できない。

直近の例として取り上げたいのが、今回、世界的な規模で発生した新型コロナウイルス感染症への対応である。当初、各国は国境を閉ざし人の出入りを制限するというグローバル化の価値観に逆行する対策でこの危機を乗り越えようとした。しかし、試行錯誤や科学的知見の積み重ねの結果、結局、世界に広がった感染症を収束に向かわせるためには、もはや一国だけの対応では不十分である。仮に、特定の国だけで収束したとしても、他の国や地域で蔓延していれば、現代世界は成り立っていない。つまり、国や地域、体制などの違いを超えグローバルな視座に立って協力がすることが重要であることを人類は再認識し、現在、世界の潮流は再びそのような方向に向かおうとしている。

人類の想像を超えてめまぐるしく変化する現代世界において、本学は、建学の理念に深く想いを寄せ、高い英語力と幅広い教養を身につけ、海外での多様な活動を体験することで、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材、言わば、「現代社会が求める真のグローバル人材」を育てることが使命と考え、この30年間で培ってきた教育をさらに深化させるとともに、新たな取組にチャレンジするための「グローバル・リベラルアーツ学部」（以下「本学部」という。）を2021年4月に開設することとした。

以上のような設置の趣旨・必要性に基づく本学部の教育研究の目的は、学則第2条第3項に次のように定めている。

グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科は、広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

構想から設置までの経過

- 2018年1月 大学改革室設置 キックオフミーティング 「神田外語大学をとりまく環境の変化」について意見交換 以降、学科再編・新学部設置について検討
- 12月 理事会 大学改革および学科改編について議論
第1回グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）カリキュラム委員会開催
第1回 学内説明会開催
- 2019年2月 第2回 学内説明会開催
- 7月 理事会 「大学新学部(グローバル・リベラルアーツ学部) 設置に係る件」承認
第3回 学内説明会開催
- 9月 外国語学部教授会 「2021年4月以降の定員変更について」承認
- 10月 設置構想に係るアンケート調査（外部委託）実施
「学部の設置に係る事前相談書類」文部科学省へ送付
- 12月 第4回 学内説明会開催
文部科学省より「事前相談結果」の送付（「届出」による設置が可能に）
- 2020年1月 GLA 学部設置準備委員会を設置（GLA 学部カリキュラム委員会を改組）
第5回目 学内説明会（オンラインで開催）
- 4月 「神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部設置届出書」を文部科学大臣へ届け出（届け出と同時に学生募集開始が可能に）
- 6月 GLA 特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」を開催
- 11月 学校推薦型選抜／総合型選抜（後期）／海外経験特別選抜入試を実施（合格発表12月3日）
- 12月 海外スタディ・ツアーの延期とプログラムの変更を公表
- 2021年1月 一般選抜〈前期〉（一般入試〈前期〉、共通テストプラス入試、共通テスト利用入試〈前期〉2科目、3科目、4科目）入試を実施（合格発表2月12日）
- 4月 学生を受け入れ、19日から授業を開始

II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組

本学部では、以下のとおり、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。これを受け、グローバル・リベラルアーツ学部の教育は、「高度な英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る人材を育成」することを目的としている。

本学部では、次のような学生を広く求める。

- (1) 幅広い教養を身につける意欲を持ち、生涯にわたって自立学習者であろうとする人
- (2) グローバルな視点から現代社会の課題に取り組み、平和に貢献する意欲を持つ人
- (3) 本学部での学修に必要な一定程度の英語能力を修得している人
- (4) 本学部での学修に必要な基礎的学力としての知識・技能・思考力を備える人
- (5) 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働する姿勢を持つ人
- (6) 留学を通じて自己を成長させようとする強い意志を持つ人

1. 入学者選抜の方法等について

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、本学部での学修に必要な、一定程度の英語能力を修得していること、論理的・批判的・創造的思考力を有していること、大学での学修を通じて更にそれを伸ばし、生涯にわたって自立学習者たりえること、グローバルな事象に関心を持ち、将来、世界の平和と発展に積極的に貢献する意思を有すること、留学を通じて自己を成長させる意思を有し、異文化を尊重し、異環境下で他者と共存できること、幅広い分野について学修を深めたいという意思を有することを確認するため、6つの方式で以下のとおり2021年度入学者選抜を実施した。

(1) 入学区分、募集人員、出願基準・条件

入試区分	募集人員	出願基準・条件
総合型選抜	15名	・本学部が定める英語資格基準を満たす者
学校推薦型選抜	15名	・本学部を第一志望とし学校長の推薦がある者 ・当該年度に高等学校(中等教育学校を含む)卒業見込みの者及び高等専門学校の3年次以上を修了見込みの者 ・本学部が定める高等学校等の評定基準を満たす者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者
海外経験特別選抜	若干名	・高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)3年間のうち1学年に相当する期間を外国において修了した者及び修了見込みの者

		・本学部が定める英語資格基準を満たす者
一般入試	10名	・高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者及び 当該年度卒業見込みの者、高等学校卒業程度認定試験合格者及び合格見込み者等
共通テストプラス入試	5名	
共通テスト利用入試	15名	
合計	60名	

(2) 入試日程

総合型選抜〈前期〉の出願期間および一般入試、共通テストプラス入試、共通テスト利用入試の合否発表日について、新型コロナウイルス感染症の影響により高校において長期間の休校などがあったことから、一部の入試区分において、日程の変更が生じた。

入試区分		出願期間	試験実施日	合否発表日
総合型選抜	前期	【変更前】2020年9月1日(火) ～9月8日(火) 【変更後】2020年9月15日(火) ～9月19日(土)	10月3日(土) および 10月4日(日)	11月2日(月)
	後期	2020年 11月2日(月) ～11月9日(月)	11月24日(火)または 11月25日(水)	
学校推薦型選抜	公募学校推薦入試 指定校推薦入試			
海外経験特別選抜	若干名			
一般入試		2021年 1月4日(月) ～1月22日(金)	A日程： 2月3日(水) B日程： 2月5日(金) C日程： 2月6日(土)	【変更前】 2月13日(土) 【変更後】 2月15日(月)
共通テストプラス入試			本学試験： 2月5日(金)	
共通テスト利用入試		2021年 1月4日(月) ～1月15日(金)	本学試験(面接)：2月3日(水)、2月5日(金)、2月6日(土)から選択	

(3) 選抜方法

入試区分	方法	形式
総合型選抜	①書類審査 ②日本語プレゼンテーション（10分以内） ＊プレゼンテーション実施後、自身のプレゼンテーションについて振り返りをし、リフレクションシートに記入 ③質疑応答・面接（約15分）	・Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・リフレクションシートの記入には、Google フォームを使用
学校推薦型選抜		
海外経験特別選抜		
共通テストプラス入試	①個別学力審査（英語・国語）＋大学入学共通テスト1科目（外国語・国語以外） ②個別面接（約15分）	・個別学力審査は本学内において対面形式で実施 ・個別面接は受験生が大学内または自宅等での受験を選択する形式
共通テスト利用入試	①大学入学共通テスト（英語・国語）＋その他1科目（3科目型） ②個別面接（約15分）	・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式

2. 入学者選抜の状況について

(1) 入学者の選抜結果

募集年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員超過率
2021年度	60名	427名	408名	147名	59名	0.98

(2) 志願者及び入学者の状況

地域別の志願者及び入学者の状況は下表に示す。志願があったのは29都道府県で、そのうち入学者が出たのは18都道県であった。なお、出身校の所在地をもって出身地域としてカウントした。

2021年度都道府県別志願者数・入学者数集計表

地方区分	都道府県	志願者数	入学者数	地方区分	都道府県	志願者数	入学者数
北海道・東北	北海道	11	2	中部	山梨県	5	1
	青森県	10	3		長野県	8	2
	岩手県	4	3		岐阜県	1	1
	宮城県	5	3		静岡県	19	2
	秋田県	1	1		愛知県	2	0

	山形県	4	0	近畿	大阪府	1	0
	福島県	6	0		兵庫県	1	0
関東	茨城県	13	2	四国	高知県	1	0
	栃木県	10	0	九州沖縄	福岡県	3	0
	群馬県	2	0		長崎県	3	1
	埼玉県	32	3		熊本県	2	1
	千葉県	118	16		鹿児島県	5	1
	東京都	110	12		沖縄県	4	1
	神奈川県	25	4	その他	高認 ^{※1}	3	0
中部	新潟県	15	0		外国等 ^{※2}	1	0
	福井県	2	0	合計		427	59

※1：高認：高等学校卒業程度認定試験 ※2：外国の学校等修了者

Ⅲ. 教育課程編成の取組

Ⅰ. 教育課程の編成について

(Ⅰ) 基本方針と検討状況

① 基本方針

本学部における教育課程編成の基本方針は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部の教育研究目的は、「広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせること」(学則第2条第3項第2号)としていること、また、上記「1. 設置の趣旨及び必要性」及び「2. 学部・学科等の特色」を踏まえ、以下のとおり教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)を定めている。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や能力を備えた人材を育成するため、以下の点を重視し、体系的にカリキュラムを編成する。

① 教育内容

(ア) 多様な学問領域にわたる幅広い教養

GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目(卒業研究を含む)に区分された各科目を適切な年次に配当し、人文科学、社会科学、自然科学、数理・データサイエンス分野などの幅広い学問領域をバランスよく学ぶカリキュラムを提供する。加えて、1年次前期の海外スタディ・ツアー、3年次後期のニューヨーク州立大学(SUNY)への留学において、日本国内では得られない様々な体験や、地域、言語、宗教、価値観などの異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、広義の教養を身につけることを目指す。

(イ) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解

1年次前期に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、異文化・異環境を知ることを目的とした入学直後の海外スタディ・ツアーを基軸に、関心のあるテーマを掘り下げ、大学4年間における学びを方向付けるための教育を提供する。2年次以降に、文化、歴史、宗教、社会や共同体、国際関係やガバナンスなどについての知識に基づき、深い文脈でグローバルな事象を理解する力を養う。具体的には、カリキュラムの中核をなす3領域の専門教養科目群(“Humanities”、“Societies”、“Global Studies”)を設置し、人文科学と社会科学のさまざまな知識と方法論を身につけ、それらを総合的に活用する能力を研鑽する教育を提供する。

(ウ) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力

1年次前期の英語の授業では、プレゼンテーション/ディスカッション、ライティングなど、スキルごとの到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した指導により、段階的に目標達

成に取り組む。1年次後期から2年次にかけては内容・言語統合型学習（CLIL: Content and Language Integrated Learning）の授業や英語で行われる専門教養科目を展開することで高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、3年次後期にはSUNYへの半年間の留学の機会を提供する。

（エ）論理的かつ批判的な思考力

1年次に大学での学びに必要な基本的な読解力と言語表現力を養成する科目「基礎演習（アカデミック日本語）」を配置し、文献や情報の収集・読解の方法とレポートの書き方を学ぶ。2～3年次にはアクティブ・ラーニングを基本とする演習形式の授業「講読演習」、「研究演習」と、英語による“Discussions and Presentations”、“Media Literacy”、“Global Communication”等の授業を配置し、日本語と英語の両方における読解力、対話力、言語表現力を高めていくことで総合的に論理的・批判的思考力を研鑽する。さらに3年次後期にはSUNYへの半年間の留学を設定し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練する。最終的には4年次に取り組む卒業研究においてそれぞれの能力を十分に発揮することを目指す。（オ）社会的な課題の発見と解決に貢献する力

1年次は、異文化環境において各地域の現状を見聞し、その体験の意味とその後の学修の方向性を学生自らが考察するための問題解決型の授業「グローバル・ディスカバリー」、オムニバス講義で平和や共生に対してどのように各学問領域からのアプローチが可能かを考える「グローバル・リベラルアーツ入門」、身体活動やアクティビティを通じて他者との協働性を実践的に培う「アドベンチャーコミュニケーションプログラム（GLA）」を置く。これらの学びと研究の方向性に従って、「専門教養科目」において具体的な課題発見・解決の方法や知識を修得し、その成果を「卒業研究」にまとめていく。また、1年次に「キャリアデザイン（GLA）」を、3年次前期に「グローバル・キャリア」を置き、学生がグローバル社会で自己のキャリアをいかに確立し社会と関わっていくかを考察する機会を設ける。

（カ）異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

異なる文化や価値観、社会の多様性に対する理解を深めるため、GLA基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目といったグローバルな視野を身につける科目を配置する。また、学生が異文化や共生社会を理解し尊重する姿勢を修得するために、異なる環境での適応力育成の機会となる、入学直後の「グローバル・チャレンジ・ターム」や、3年次後期のSUNYへの半年間の留学の機会を提供する。

② 教育方法

- ・授業では、アクティブ・ラーニングを導入することにより、学生の専門知識とその運用能力、思考力と積極的な学修態度を養う。
- ・1～2年次はスキルを中心とした英語授業を展開し、1年次後期からはCLILの授業を履修させることで、「英語を」学ぶよりも「英語で」実践的かつ専門的な学修・運用能力を高める機会を提供する。

- ・学生の主体的な学修態度と学修能力を養うため、問題解決型授業を実施する。学生が課題を発見し、具体的な解決策を考えることができる教育を提供する。発表の場を通じて、学生のコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップを養成する。
- ・現代のグローバル社会に必要な幅広い教養を身につけるため、外国語科目の他、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目を教育課程に含める。基礎教養科目 B 群では、AI やデータサイエンスを身につけるための科目を含み、文理融合の教養を育む。

③ 学修成果の評価

- ・学修成果は、学生の授業科目の履修状況、各教育課程で達成した成果、および学士課程全般の成果を、教職員を中心として行う直接評価と、学生が自己の学修成果を主観的に判断する自己評価等の間接評価を通じて定期的に評価することとする。
- ・学生の学修状況は量と質の双方から観察し、学修ポートフォリオに記載させるなど、学修成果の可視化を図るとともに、学生の4年間の成長を段階的に評価する。

② 検討状況

以上のような教育課程編成の基本方針に基づき、2020年1月に設置された「グローバル・リベラルアーツ学部設置準備委員会」（以下「委員会」という。）を中心に2021年4月の授業開始に向け具体的な検討を進めた（下表「(a) 委員会における検討内容」、「(b) 委員会における教務関係の検討事項」を参照）。

なお、委員会における検討内容は、2021年4月に着任予定の専任教員全員による同委員会拡大会議を逐次開催し情報共有を図った。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部設置準備委員会規程（抜粋）

（構成）

第2条 委員会は、委員長および委員で構成する

- 2 委員長は、学長が指名する者をもって充てる。
- 3 委員は、本学の教育職員のうちから学長が指名する。
- 4 委員会が必要と認めたときは、委員のうちから副委員長を選任することができる。

（職務）

第3条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) グローバル・リベラルアーツ学部の設置および運営に関する方針、教育課程、人事、組織等の基本事項
- (2) グローバル・リベラルアーツ学部設置等に必要その他の事項

(a) 委員会における検討内容

開催日	回数	検討事項
2020年1月22日(水)	第1回	1. 非常勤講師の任用人事について 2. 2021年度入学試験について

		<ul style="list-style-type: none"> 3. 3ポリシーのフィードバック結果について 4. 設置の趣旨のフィードバック結果について 5. 履修モデル・時間割パターンについて
2020年1月29日(水)	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 3ポリシーのフィードバック結果について 2. 履修モデル・時間割パターンについて 3. 設置の趣旨のフィードバック結果について
2020年2月10日(月)	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 海外スタディ・ツアーの概要について 2. 3ポリシーの策定について(継続審議) 3. 設置の趣旨等を記載した書類について(継続審議) 4. 履修モデルについて(継続審議) 5. 今後検討すべき事項(カリキュラム関係)について(継続審議)
2020年2月18日(火)	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 3ポリシーの策定について(継続審議) 2. 設置の趣旨等を記載した書類について(継続審議) 3. 時間割について 4. 今後検討すべき事項(カリキュラム関係)について(継続審議)
2020年3月4日(火)	第5回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 3号館の改装について 2. カリキュラム・ポリシーについて 3. 設置の趣旨等を記載した書類について(継続審議) 4. 担任制度について 5. GLA 学部設置に向けた当面の運営体制について
2020年4月13日(水) ~14日(火)	第6回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 入試制度について(メール審議)
2020年4月15日(水)	第7回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学部長のサポート体制について 2. 奨学金制度について 3. 担任制度について 4. GLA 学部学内外広報について 5. 今後決定すべき事項(カリキュラム関係)
2020年5月21日(火)	第8回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 海外スタディ・ツアーについて 2. e-ポートフォリオについて 3. アカデミックアドバイザー制度について 4. 今後決定すべき事項(カリキュラム関係) 5. 入試制度について
2020年5月27日(水)	拡大会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部について(情報共有) 2. GLA 学部設置に伴う担当コマ数調べについて
2020年6月17日(水)	第9回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部教授会について

		<ul style="list-style-type: none"> 2. 今後決定すべき事項 (カリキュラム関係) 3. 入試制度について 4. E-portfolio (update)について 5. GLA 入門の計画について (ブレインストーミング) 6. GLA 学部特別セミナーの開催について 7. 3号館改修について
2020年6月24日(水)	拡大会議	1. GLA 学部について (情報共有)
2020年7月15日(水)	第10回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部設置に向けた運営体制について 2. 今後決定すべき事項 (カリキュラム関係) 3. 入試制度について
2020年7月21日(火)	拡大会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. 時間割について 2. 入試制度について
2020年8月19日(水) ~25日(火)	第11回	1. 今後決定すべき事項 (カリキュラム関係) (メール審議)
2020年9月16日(水)	第12回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部の運営について 2. 入学前教育について 3. GLA 入門について 4. GLA 学部授業開始に向けた検討課題について 5. GLA 学部入試会議について 6. 3号館の改修について 7. GLA 学部の学生が使用するデバイスについて 8. 2020 学生募集について 9. 海外スタディ・ツアー (インド) トライアルレッスンの実施について
2020年9月30日(水)	拡大会議	1. GLA 学部について (情報共有)
2020年10月7日(水)	第13回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部総合型選抜〈前期〉の合否判定について 2. 転学部について 3. GLA コモンズの教室管理について
2020年10月21日 (水)	第14回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部総合型選抜〈後期〉等の入試体制について 2. GLA 学部運営委員会の設置について 4. 海外スタディ・ツアーの Web への掲載について
2020年11月11日 (水)	第15回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部学生のキャリア支援策について 2. GLA 学部総合型選抜〈後期〉等の入試体制について 3. GLA 学部運営委員会の設置について

		<ul style="list-style-type: none"> 4. GLA 学部授業開始に向けた検討課題について 5. e-ポートフォリオについて 6. 海外スタディ・ツアー取扱いに関する広報時期について
2020年12月2日(水)	第16回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部総合型選抜〈後期〉等の合否判定について 2. 副学長の担当制の導入および学長補佐の指名について 3. 海外スタディ・ツアー2.0について 4. GLA 学部授業開始に向けた検討課題について
2020年12月9日(水)	第17回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 海外スタディ・ツアー2.0について 2. GLA 学部授業開始に向けた検討課題について 3. 一般選抜の面接実施について
2021年1月6日(水)	第18回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部授業開始に向けた検討課題について 2. アドバイザー制度について 3. 年内入試合格者入学前教育などについて 4. GLA 学部授業形態について
2021年1月13日(水)	拡大会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部について (情報共有)
2021年1月28日(木)	第19回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学生便覧の確認事項について 2. 一般選抜【一般入試、共通テストプラス入試、共通テスト利用入試】について 3. 年内入試合格者入学前教育について
2021年2月12日(金)	第20回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 入学判定について 2. 奨学金候補者選定について 3. 教員所属について
2021年3月12日(金)	第21回	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA Commons について 2. 入試結果について 3. アドバイザー制度 (担任制度) について 4. Open Campus などの日程について 5. GLA 学部開設の進捗状況報告会 (3月19日予定) について 6. GLA ガイダンス (4月9日予定) について 7. GLA のBHFOC (4月10日~11日予定) について
2021年3月17日(水)	拡大会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. GLA 学部について (情報共有)

(b) 委員会における教務関係の検討事項

委員会における教務関係の検討事項は、「今後決定すべき事項（カリキュラム関係）」及び「GLA 学部授業開始に向けた検討課題」として以下のとおり整理しながら検討を進めた。

1. 新入生入学前課題関係
1-1 入学前課題の設定
1-2 Pre-Kanda Education for GLA の実施
1-3 スタートアップセミナーの実施
2. 新年度日程等案内関係
2-1 新入生ガイダンス
2-2 フレッシュマン・オリエンテーションキャンプの実施
2-3 新入生英語テストの実施
2-4 GLA 学部入学予定者への案内資料
3. 履修・成績関係
3-1 進級基準の検討
3-2 語学検定試験単位認定基準
3-3 グレード評価、P/F 評価の検討
3-4 科目履修基準の検討
3-5 資格、課程履修の検討
3-6 出席基準
3-7 英語科目の履修順
3-8 選択外国語科目のクラス設定
3-9 専門教養科目 B 群の履修順
3-10 卒業要件の設定
3-11 専門教育の履修ルール
3-12 ゼミ運営方法の検討
3-13 研究演習の指導教員
3-14 専門教養科目の英語による開講
3-15 他学部履修・聴講ルールの検討
3-16 他大科目履修・国内留学の単位認定の可否
3-17 GLA 入門の授業運営の方法
3-18 クラス分けの方針（英語・アカデミック日本語）
3-19 DP・CP とシラバスのひもづけ
3-20 休学と復学年次の考え方
4. 教員・外国語学部との調整関係
4-1 転学部ルールの検討
4-2 外国語学部とのコマ数調整

4-3 各種委員会の整理、運用方法の検討
5. 時間割・教室関係
5-1 時間割
5-2 シラバス作成依頼
5-3 2022年度以降の教室不足問題
5-4 大学院跡地のスペースの授業の配置
6. 便覧関係
6-1 便覧内容作成
6-2 カリキュラムマップ、カリキュラムツリー作成
7. 留学関係
7-1 留学 web の仕様変更
7-2 海外スタディ・ツアーの行き先の振り分け方
7-3 海外スタディ・ツアーに参加できなかった学生の扱い
7-4 海外スタディ・ツアーを2月に実施する場合の扱い
7-5 海外スタディ・ツアー2.0について
7-6 SUNY 留学単位認定ルールの作成
7-7 SUNY 留学中の学生指導の方法
7-8 SUNY 2年次前期までに留学に必要な TOEFL スコアを取得させるための教育内容
7-9 SUNY 留学に参加できなかった学生の扱い
8. その他
8-1 eポートフォリオ
8-2 基幹システム・科目関係
8-3 授業名の英訳、3ポリシーの英訳
8-4 入学時のデジタルツール (PC/iPad) について
8-5 アドバイザー制度

(2) 特色と特記事項

教育課程編成の基本方針に基づく本学部の教育課程は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおりその概要を記載している。

本学部の教育課程は、①外国語科目、②GLA 基礎科目、③基礎教養科目、④専門教養科目、⑤演習科目及び⑥卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）に体系的に区分され、次のとおり編成している【資料 1、2】。

① 外国語科目

(ア) 英語科目

英語運用能力の養成に力を注ぎ、オンライン授業を活用しつつ、順次性のある体系的な教育課程を編成する。本学部では、2回の留学を念頭に置き、英語4技能（「聞く（listening）」、「読む（reading）」、「話す（speaking）」、「書く（writing）」）習得のための授業に加え、コンテンツ・ベースの英語（CLIL）科目を設置する。CLILは、海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶ科目である。

(イ) 選択外国語科目

選択外国語科目として、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を履修可能とする。2年次以降の履修が必修である。

② GLA 基礎科目

1年次の必修科目として、「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」（グローバル課題学習及び課題解決型授業）、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ」（グローバル時代の教養について学ぶ）、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ」（グローバル時代の平和について学ぶ）、「キャリアデザイン（GLA）」「アドベンチャー・コミュニケーションプログラム（GLA）」（協力が求められる身体活動及びコミュニケーション・アクティビティ）、「グローバル・ヒストリー」がある。「海外スタディ・ツアー」に必要な GLA 基礎科目を事前・事後に履修し、1年次の「グローバル・チャレンジ・ターム」のプログラムの一環とする。

3年次前期では、「グローバル・キャリア」を必修とし、3年次後期の海外留学とその後のキャリア・プランを学生が見据えることをねらいとする。

③ 基礎教養科目

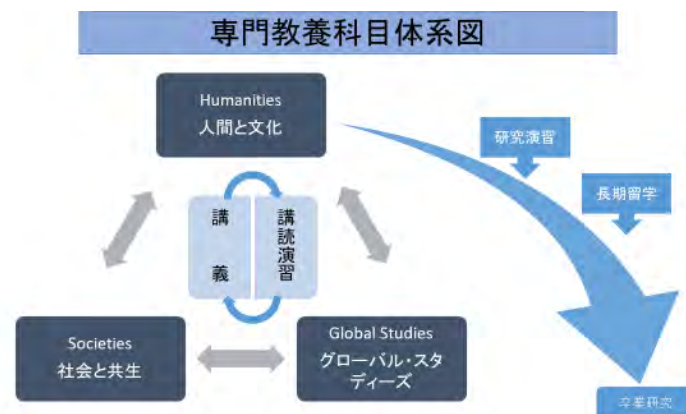
A群(外国語学部と共有する科目群)では、人文科学分野（「歴史学」、「哲学」等）、社会科学分野（「社会学」、「法学」等）、自然科学分野（「自然科学概論」、「生物学」等）の科目を設定する。

B群は本学部独自の科目群で、「数的思考法」、「デジタル・シチズンシップ論」、「データ・サイエンス概論」、「コンピュータ・サイエンス概論」、「ビッグデータ解析論」、「エビデンスと評価」の科目を設定し、文理融合の教養教育を涵養する。

④ 専門教養科目

専門教養科目は、「Humanities（人間と文化）」「 Societies（社会と共生）」「 Global Studies（グローバル・スタディーズ）」の科目群から構成される。「Humanities」では、「宗教文化論」、「芸術文化論」、「人間と文学」、「人間と思想」、「世界近現代史」、「文化人類学」から選択履修す

る。「Societies」では、「共生社会論」、「社会と多様性」、「社会とサステナビリティ」、「現代社会とイノベーション」、「言語・文化とコミュニケーション」、「デジタル・メディアと社会」、「異文化コミュニケーション論」から選択履修する。「Global Studies」では、「グローバル・ガバナンス」、「地域とグローバル・世界」、「グローバル平和論」、「国際法」、「国際機構論」、「国際開発論」の科目からの選択履修が可能である。なお、これら3つの講義科目群に対応した演習科目（講読演習）が用意されており、これにより研究演習、そして卒業研究へと専門性が深化する仕組みとなっている。



⑤ 演習科目（アカデミック日本語、研究演習）及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の必修化

1年次の基礎演習として、「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」を通年で実施し、日本語能力の向上のほか、論理的思考と課題設定能力を育成する。

2年次後期以降は、「講読演習」を履修する。「講読演習」には、専門教養科目同様の3つの科目群（「Humanities」、「Societies」、「Global Studies」）があり、各科目に関連して文献精読・発表・議論を行う。今まで履修した科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶことを目的とする。

本学部の学生は、3科目（半期科目の「研究演習Ⅰ」・「研究演習Ⅱ」と、通年科目の「研究演習Ⅲ」）の研究演習（ゼミ）を履修する。本学部では、ゼミは必修であり、2～4年次にかけてゼミを漸次履修することにより、学生の関心のあるテーマを設定し、適切な方法論を用いた卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）へと円滑につなげる。

⑥ 卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）

本学部では、卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の履修は、文章（文献）を読む力、討論する力、文章を書く力、論理的に考え、分析する力を育成する上においても有意義であるとの考えに基づき、研究演習の履修とともに必修である。本学部では、大学生活の学びの集大成（Capstone）として卒業研究を完成させる。

GLA学部教育課程の概要						
授業科目／学年		概要	1年	2年	3年	4年
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力の獲得				
	選択外国語科目	もう一つの言語運用能力の獲得				
GLA基礎科目		リベラル・アーツを知る、学ぶ スタディツアーの準備、振り返り				
基礎教養科目	A群	幅広い教養を身につける				
	B群	AIやデータサイエンスを身につける				
専門教養科目	Humanities(人間と文化)	3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける				
	Societies(社会と共生)					
	Global Studies(グローバル・スタディーズ)					
演習科目	基礎演習	日本語能力の向上、論理的思考と課題設定能力を育成				
	講読演習	既習科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶ				
	研究演習	学生の関心のあるテーマを設定し、卒業研究へとつなげる				

①特色

また、教育課程における特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

<p>また、本学部での教育課程編成上の特色は以下の9点である。</p> <p>① 建学の理念に基づく「平和」についての徹底的な学修</p> <p>② ・ 本学は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学理念としている。この本学の建学理念である「平和」を学部教育の根幹に据えて、言語・コミュニケーションを含む幅広い観点から学修する。</p> <p>② 高度な英語運用能力の修得</p> <p>・ グローバル化の時代に不可欠な英語力を高め、卒業時まで TOEFL ITP580 (TOEFL iBT92相当) を達成することを目標とする。</p> <p>③ これからの社会で必要とされる幅広い教養教育の涵養</p> <p>・ 人文・社会科学から数理・自然科学にわたる教養科目を設置し、文理融合の教育を実践する。</p> <p>④ 徹底した少人数教育</p> <p>・ 英語科目のうち言語運用能力そのものの向上を目的とした授業については原則として 20 名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業の場合は 30 名以下にする。</p> <p>・ 専門教養科目については 1 クラスの人数を、20~40 名程度となるよう開講する。</p> <p>・ 「研究演習」は 1 クラス 10 名程度を標準とする。</p> <p>⑤ 演習科目及び卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)の必修化</p>
--

- ・ 学生による自発的学習の場である演習科目は必修とする。
- ・ 入学時は「アカデミック日本語」の履修により日本語での「考える力」と「書く力」の強化を図る。また、2～4年次では「研究演習」(ゼミ)を継続して履修することにより、「卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)」につなげるなど、演習科目を大幅に拡充する。
- ⑥ 課題解決型学習、アクティブ・ラーニングによる授業編制
 - ・ 一般科目についても、出来る限り、ゼミ形式又はアクティブ・ラーニング形式で実施する。
- ⑦ 「グローバル・チャレンジ・ターム」導入
 - ・ 1年次前期を本格的な大学教育に先立つ「ギャップ・ターム期間」として位置づけ、特別なカリキュラムを設定する。
 - ・ 期間の中核に「海外スタディ・ツアー」を位置づけ、事前学修・事後学修を併せた効果的なプログラムを構築する。
- ⑧ 2回の留学を必修化
 - ・ 入学直後の「海外スタディ・ツアー」(必修)は、異文化・異環境を体験し、グローバルな感性・多文化共生の観念を身につけ、将来を見据えた学修の目標立てに資することがねらいである。
 - ・ 3年次後期に長期留学(SUNY: 1セメスター)を必修にする。さらに海外ボランティア等の活動を推奨する。
- ⑨ 教育成果の可視化
 - ・ 各種の学修成果の可視化と大学時代に大学の内外で学修した成果を証明する仕組み(ポートフォリオ形式など)を構築する。

以上、①から⑨の特色のうち、2020年度における特記事項は次のとおり。

② 特記事項

⑧ 2回の留学を必修化

本学部では、ディプロマ・ポリシーをふまえ、短期海外研修及び長期留学の計2回の留学を必修としている。

1回目は、入学直後の1年次の6～7月にかけて行われる約3週間の「海外スタディ・ツアー」であり、2回目は、3年次の後期のニューヨーク州立大学(SUNY)への1セメスター留学である。

2回のうちの1回目の「海外スタディ・ツアー」について、「設置の趣旨等を記載した書類」において次のとおり記載している。

① 目的・概要

本学部独自の取組として、入学後のセメスターにおいて、「海外スタディ・ツアー」をコア・カリキュラムとする「グローバル・チャレンジ・ターム」を設定する。

このタームは、いわゆる「ギャップ・ターム」としてとらえており、本格的な学部教育がスタートする前の半年間で、何のために学ぶのか、どう自身の能力や関心を涵養するのか、また、学

んだことを用い社会でどう自己実現していくかなどを、学生に深く考えさせるための時間として位置づけ、特別なカリキュラム編制を行っている。

そのカリキュラムの中核となるのが、地域ごとに特色のあるフィールドワークを組み込んだ「海外スタディ・ツアー」であり、入学直後の第1年次の6～7月に約3週間の日程で実施する。

「海外スタディ・ツアー」は、以下の諸点を目的として実施する。

(ア) 入学後間もない時期に実施することから、第一義的に、異文化にふれることで刺激(カルチャー・ショック)を与えるとともに、異環境下での生活・学修を体験することで、グローバルな感性、多文化共生力の涵養、新たな課題や困難に直面した際の問題解決能力の醸成を図ること

(イ) 建学の理念である平和について深く学ぶこと、また、地域によっては、学校、児童養護施設などでボランティア活動を行うことにより、格差、貧困、環境、移民・難民問題などグローバル化した現代社会が抱える課題について、自分自身その解決に何ができるか考えさせること

(ウ) 各国・地域ごとに、専門教養科目で学ぶ「人間と文化」、「社会と共生」、「グローバル・スタディーズ」の各分野の課題や SDGs に関連したテーマを深く学び、1年次後期からの学修の方向性や動機づけを図ること

このようなことから、「海外スタディ・ツアー」では、本学部の学修内容に合致し、かつ、通常、大学初年次では渡航する機会が限られると思われるインド、リトアニア、エルサレム、マレーシア・ボルネオに学生を派遣することとしている。

なお、学生を海外に送るにあたっては、今般の新型コロナウイルス感染に伴う収束状況を慎重に見極めるほか、これら地域の状況の変化やその他感染症の発生など、安全対策が最大の課題と認識しており、この点に最大限配慮して実施することとしている。

以上の目的に基づき準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、次年度(2021年度)の海外スタディ・ツアーを延期するとともに、代替プログラムとして「海外スタディ・ツアー2.0」を策定。2020年12月15日(金)に本学Web上に次のとおり公表し、プログラムの実現に向け準備を進めた。

このプログラムは、現地の協定大学の教員による講義、学生との交流や討議、現地のNGOやテーマに関連した施設などのバーチャルツアーとオンライン実習などの体験プログラムに加え、日本国内の4地域にゆかりのある関連機関や大使館などのゲストレクチャーによる特別講演のほか、最初の2週間は、神田外語グループが保有する国際研修施設「ブリティッシュ・ヒルズ」において宿泊研修を実施する。ブリティッシュ・ヒルズでの宿泊研修では、ネイティブ教員による英語レッスン、海外大学オンラインプログラムとその事前事後研修がメインとなり、課外アクティビティとして、福島被災地日帰りツアーを経験し、最終日に研修の総括をグループに分かれ英語によるプレゼンテーションで締めくくることがとしている。

なお、新型コロナウイルスの海外各国の感染状況が落ち着いた暁には、派遣国を限定し、期間短縮で実際の海外スタディ・ツアーの派遣を検討していく。

WEB 公表内容（抜粋）

グローバル・リベラルアーツ学部では、カリキュラムに沿って、2021年6～7月に、リトアニア、インド、エルサレム、マレーシア・ボルネオの4地域で海外スタディ・ツアーを実施することとしております。

実施にあたっては、渡航や現地に必要な諸準備の関係から、本年末までには日程をはじめとするプログラムの詳細を決定する必要がありますが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は未だ収束の気配は見られません。何よりも、学生の皆さんの安全確保が最優先課題であることから、教室内での講義だけでなく市中でのフィールド・ワークにも重きを置く海外スタディ・ツアーを予定の時期に実施することは、残念ながら、難しいと判断しました。

そこで、本学部としては、海外スタディ・ツアーの実施を延期するとともに、当初のプログラムを変更することいたします。

まず、来年の6～7月については、4週間にわたりオンラインで4地域と結ぶ代替プログラム「海外スタディ・ツアー2.0」を実施します。このプログラムは、現地の提携大学などと協議し、講義と学生との交流や討議、バーチャルツアーによるNGOなどの訪問とオンラインによる実習などの体験プログラムを中心に組み立て、加えて日本国内の4地域に関連する場所や海外支援機関などを訪問することとしております。また、プログラムのコア部分は、新型コロナウイルス感染予防対策を講じたうえ、本学の国際研修施設であるブリティッシュ・ヒルズにて宿泊研修を行います。詳細は、以下pdfをご参照ください。

学生は、このプログラムに参加することで、本来、各自一つの地域での研修であったものが、4地域について、多文化共生や宗教、人道支援、歴史、サステナビリティなど各地域のテーマを広く相互に比較しながら学ぶことが可能になります。コロナ禍のなかでも、教育の質を落とさず、最大限できることを実施するという観点に立ち、現在、鋭意、プログラムの最終調整を行っているところです。

一方、実際に、現地に行かなければ体験できないことも多々あることから、新型コロナウイルス感染症の状況がある程度落ち着いた時期に、渡航期間は変更となる予定ですが、現地へのスタディ・ツアーを実施いたします。

本学部では、このように、オンラインと対面を組み合わせたプログラムを構築することにより、当初の計画と遜色ない質の高い、満足度の高いプログラムの実現を目指します。

海外スタディ・ツアーに大きな期待を寄せておられた合格者、受験者の方々、また、保護者の皆様方、そして高等学校の先生方には、誠に恐縮ですが、現下の状況と本学部の取組に対し、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

公表したプログラム

海外スタディ・ツアー2.0プログラム						
6/27 (日)	6/28 (月)	6/29 (火)	6/30 (水)	7/1 (木)	7/2 (金)	7/3 (土)
大学から移動 オリエンテーション	リトアニア/カウナスと結んだオンライン学修					フィールド・トリップ (福島) 東日本大震災・原発事故 関連施設等への訪問
	講義：リトアニアの歴史・日本とリトアニアとの関係・EUにおけるNATO加盟下に置けるバルト諸国など バーチャルツアー：●杉原千畝記念館、●カウナス第9要塞博物館（ユダヤ人強制収容施設） ヴィータウタスマグナス大学学生との交流 British Hills でのハイレベルの英語学修					
神田外語国際研修センター British Hills での合宿研修（12泊13日）						
7/4 (日)	7/5 (月)	7/6 (火)	7/7 (水)	7/8 (木)	7/9 (金)	7/10 (土)
エルサレムと結んだオンライン学修					大学へ移動	
講義：中東の歴史・イスラエルの社会・イスラエルとアラブ諸国との関係・イノベーション&スタートアップなど バーチャルツアー：●ホロコースト博物館、●エルサレム旧市街地（3大宗教の聖地） ヘブライ大学学生との交流 British Hills でのハイレベルの英語学修						
神田外語国際研修センター British Hills での合宿研修（12泊13日）						
7/11 (日)	7/12 (月)	7/13 (火)	7/14 (水)	7/15 (木)	7/16 (金)	7/17 (土)
インド/ブネーと結んだオンライン学修						
講義：インドの文化・インド現代史・インドの社会構造とNGOの役割、インドの挑戦と未来など バーチャルツアー：●NGO訪問とバーチャル・ボランティア体験（現地の機会に恵まれない子どもたちに対する支援活動） シンバイオシス大学学生との交流、ヨガ体験など 東京都内と近郊にある4地域ゆかりの施設や公的国際支援機関、NGOなどを訪問予定						
神田外語大学キャンパス（千葉県美浜区）						
7/18 (日)	7/19 (月)	7/20 (火)	7/21 (水)	7/22 (木)	7/23 (金)	7/24 (土)
マレーシア/ボルネオ島クチンと結んだオンライン学修						
講義：ボルネオの人々と移民・ボルネオの文化・自然資源・環境問題とSDGsへの対応・持続ある開発計画など バーチャルツアー：●原住民族の織物の財団、●サラワク木材公社 スウィンバーン工科大学サラワク校学生との交流 東京都内と近郊にある4地域ゆかりの施設や公的国際支援機関、NGOなどを訪問予定						
神田外語大学キャンパス（千葉県美浜区）						

⑨ 教育成果の可視化

本学部の学修成果の可視化と学生の4年間の成長を段階的に評価する仕組みとして、Salesforce社のEducation Cloudを基盤としたe-ポートフォリオ（KUISポートフォリオ）の開発に2020年7月から着手した。

KUISポートフォリオは、①目標管理、②学習サイクル、③DPダッシュボードの機能を持ち、2021年4月の段階では、まず①②から稼働しGLA学部の新入生を対象に利用を開始することとした。

(i) 目標管理

学生自身が目標を定め、それを達成する過程をKUISポートフォリオに記録していく。目標は、大学での在学期間を経て達成する「キャリア目標」、大学生活全体での「大目標」、それを実現するための「中目標」「小目標」と階層的に構成され、授業を始めとするさまざまな活動によって段階的に目標を達成していく経過を把握することができる。

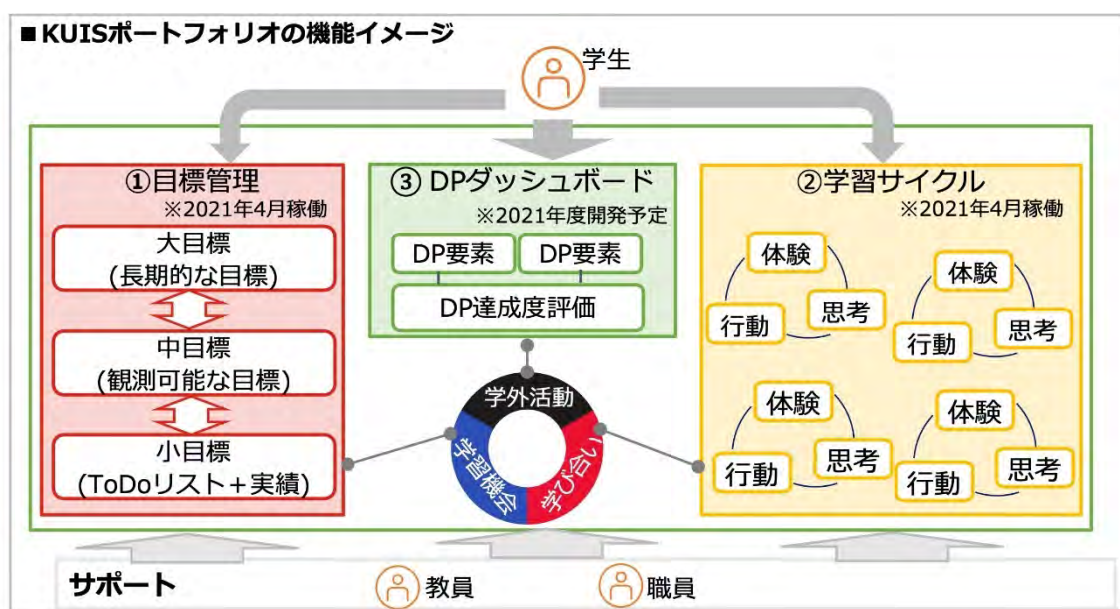
(ii) 学習サイクル

授業や課外活動などにおいて得られる経験を、体験・思考・行動の3つからなる「学習サイクル」として KUIS ポートフォリオに記録することで、継続的な成長や変容を捉えることができる。

どちらの機能にも、担当の教員からのフィードバックを送ることが可能で、学生の状況を確認しつつ、適切な指導を行うこともできるようになっている。

当面は教員側もシステムに慣れる必要があるため、一部の授業のみで導入することを予定している。その上で、前期始めのオリエンテーションから学生への導入指導を開始し、フレッシュマンオリエンテーションキャンプで目標を設定するなどの進行を予定している。

2021 年度中に③DP ダッシュボード機能を整備する計画である。



2. 教員の組織体制について

本学部の教員組織の編成の考え方及び特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

(1) 教員配置の考え方

本学部では、多様な学問領域にわたる幅広い教養とグローバルな事象を多面的に理解するための専門的知識を有する人材を育むために、各専門分野で博士号もしくはそれに準じる専門的な知識・経験を有する者を教員として採用・配置する。

また、英語を含む語学の授業では少人数のクラス編成を基本としており、このようなクラス編成が可能となるよう手厚い教員配置を行う。特に、各言語の教授法やコミュニケーション学等の修士号取得者を中心に、英語ネイティブ教員を積極的に採用、配置する。

なお、本学部の教育を実施する専任教員総数は 14 名で、教授 5 名、准教授 4 名、講師 5

名からなる。また、学位取得者は、博士号 11 名、修士号 3 名であり、78.6%が博士の学位を有している。

(2) 教員配置への配慮

本学部で開講する主要授業科目（GLA 基礎科目、専門教養科目、演習科目）には基本的に教授または准教授を配置することとしているほか、次のとおり授業科目への教員配置に配慮している。

① 英語科目

「英語科目」の中で初年次教育の一環として重要視される「English for Academic Purposes」、「Self-Directed Learning」においては、英語教育を専門とする教授又は准教授の専任教員を配置し、きめ細かい指導を行う。

② GLA 基礎科目

本学部ならではの科目区分として、本学部での学びとキャリアを学生自身が主体的に考え方向づけることを目的とした「GLA 基礎科目」のうち、特に主要な科目として位置づける「グローバル・ディスカバリー I・II」、「キャリアデザイン (GLA)」、「グローバル・キャリア」については、その重要性から学長、学部長、教授が科目を担当する。

③ 専門教養科目

2～4年次に配当される「Humanities(人間と文化)」、「Societies(社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ：地域研究と国際関係)」の3領域にわたる「専門教養科目」(24 科目)のうち、13 科目を教授・准教授が担当する。

④ 研究科目

本学部のリベラルアーツ教育を代表する「研究科目」は、「卒業研究」(キャップストーン・プロジェクト)(4年次)を学びの集大成として位置づけ、「研究演習」I・II・III(2～4年次)を通してその準備を進めることになるが、その教育研究指導は本学部専任の教授3名、准教授4名、講師3名の計10名体制で行う。

(3) 研究体制

本学部では、グローバル時代の教養の養成にふさわしい、「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の3分野に、人文学と社会科学の領域を専門とする専任教員を配置し研究教育を推進する。

具体的には、Humanities 分野の担当者として歴史学(1名)、哲学(1名)、日本倫理思想(1名)、宗教学(1名)の専門家を、Societies 分野の担当者として社会学(2名)、社会言語学(1名)の専門家を、Global Studies 分野の担当者として政治学・国際政治学・国際経済学(3名)、国際法(1名)の専門家を配置する。

この3分野及び学際的な研究を行うための会議体を設け、これら領域における研究活動の促進を図るほか、「専門教育科目」及び「演習科目(講読演習)」の科目調整も行う。

また、学生の研究活動に必要となる学術的な日本語基礎力の養成と、海外の大学において学修・研究を行うに足る高度な英語力の養成のために、日本語教育を専門とする専任教員(1名)と英語教育及び英語言語学を専門とする外国人専任教員(2名)を配置する。

なお、本学部の専任教員は、教授5名、准教授4名、講師5名からなる。うち、11名が博士号を、3名が修士号を取得しており、博士号取得者の割合は78.6%である。

以上の教員組織の編成の考え方及び特色に基づき、2020年度の実施状況は以下のとおりとなっている。

(1) 教員配置の考え方

各専門分野で博士号もしくはそれに準じる専門的な知識・経験を有する者を240名の定員に対し兼任教員等合わせ110名（計画案では109名）を配置。また、語学（英語）の授業で少人数のクラス編成（1クラス20名程度）を行なうため、その教授法やコミュニケーション学等の修士号以上をもつ英語ネイティブ教員を計画案のとおり10名以上配置。

(2) 教員配置への配慮

本学部で開講する以下の主要授業科目に対して、主に教授または准教授を配置した。

- ① 英語科目
「English for Academic Purposes」、「Self-Directed Learning」は、英語教育を専門とする教授又は准教授の専任教員を配置。
- ② GLA 基礎科目
グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ、「キャリアデザイン（GLA）」、「グローバル・キャリア」を学長、学部長、教授が科目を配置。
- ③ 専門教養科目
24科目のうち、13科目を教授・准教授を配置。
- ④ 研究科目
「研究演習」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2～4年次）の教育研究指導は本学部専任の教授4名、准教授3名、講師4名の計11名体制とした。

(3) 研究体制

Humanities 分野では歴史学（1名）、哲学（1名）、日本倫理思想（1名）、宗教学（1名）の専門家を、Societies 分野では社会学（2名）、社会言語学（1名）の専門家を、Global Studies 分野では政治学・国際政治学・国際経済学（2名）、国際法（1名）の専門家を配置。また学部としての教育研究活動を促進し、学部の円滑な運営を図るためにGLA運営委員会を設置。

(4) 年齢構成

学部設置年度における専任教員の年齢構成は、60歳以上1人、50～59歳6人、40～49歳2人、30～39歳4人であり、完成年度までに定年となる教員はおらず、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。

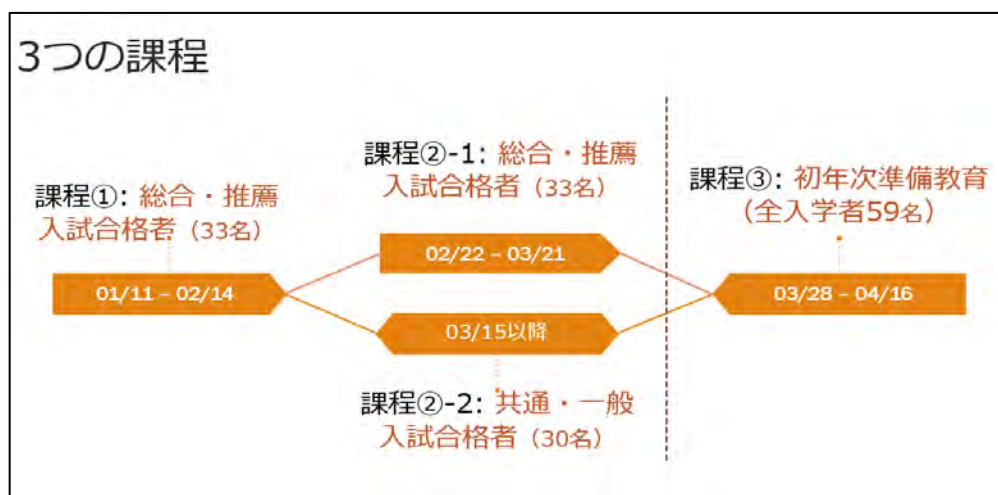
IV. 学生支援の取組

1. 学習支援の取組について

(1) 入学前教育

本学部における入学前教育（Pre-Kanda Education for GLA）は、主に入学予定者の高校から大学へのマインドセットの転換や大学教育への移行をサポートしつつ、学習ニーズを把握しながら大学学修への準備を円滑に進めることを目的として実施。特に、簡単な学力調査の結果をもとに、学部での学修に必要なアカデミック英語と日本語の基礎能力の習得を目指した。

入学予定者は、Google Classroom、Zoom、および KUIS e-Portfolio を活用しながら、先輩アドバイザー(チューター)と担当教員からの支援・指導のもと課程①から課程③までの三段階で入学前教育を実施した。



課程 ①

この過程は、年内入試での入学予定者を対象に、2021年1月11日から2月14日の期間で実施。アカデミック英語と日本語の基礎能力の習得の他に、大学教育への入り口として「大学での学びとは?」、「自立学習とは」、「GLA 学部を目指す人材とは」、「リフレクションの重要性」等を把握してもらう事を目的に、様々な課題を与え、在学生のチューターが中心となって課程を進行した。

課程 ②

この過程は、一般選抜での入学予定者も2021年3月15日から合流して、2021年2月22日から3月21日の期間で実施。アカデミック英語と日本語の基礎能力の習得は継続しつつ、GLA 学部への理解をより深める為に、GLA 学部の先生推奨の本の読書課題も実施。

一般選抜での入学予定者には、学部理解に特化し、年内入試組との差を埋める事を目指した。

課程 ③ (初年次準備教育)

この過程は、初年次準備教育として、学年暦の関係で入学式から授業の開始まで約3週間の期間があったため、その期間を利用し、入学予定者全員を対象に、2021年3月28日か

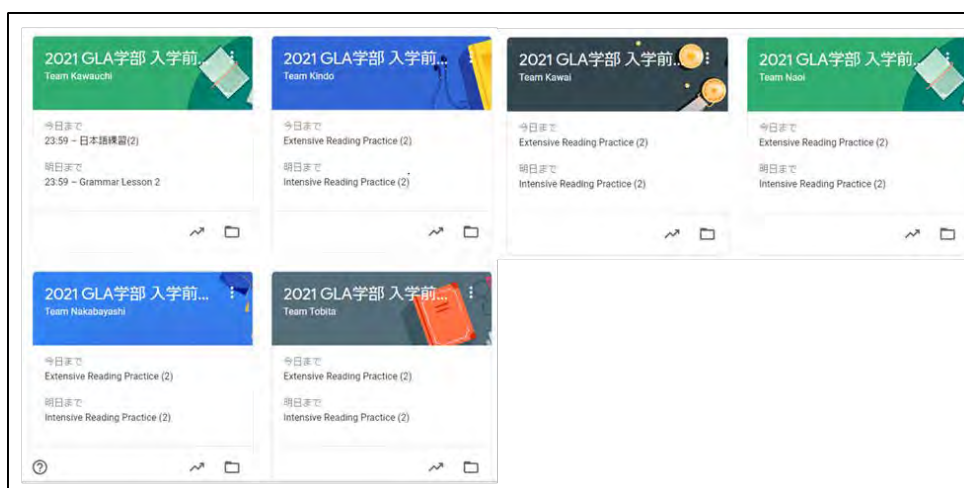
ら2021年4月16日の期間で実施。電子メール、図書検索、レポート作成など、基本的な学術研究スキルを身に付ける事を支援。

また6月からの海外スタディ・ツアー2.0で体験する4つの国・地域についての事前学習として映画鑑賞とそのリフレクションの共有、また3月末に実施されたTOEFL試験の結果をフォローアップし、補足的な学習も実施。また、GLA学部で利用するKUISポートフォリオの利用も開始した。

【チューターの活用】

Pre-Kanda Education for GLAでは、在学生による6名のチューターがそれぞれチームを作り、課題の採点、振り返りから、学業や大学生活の不安解消まで多くの役割を担った。

(6名のチューターが開設しているGoogle classroom)



(2) 修学支援奨学金

本学部では、就学を支援する奨学金として、次のとおり「特待生奨学金」と「成績優秀者奨学金」の2つの奨学金を設けている。

「特待生奨学金」は、新しい学部の、新しい学生に大いに期待すること、また文字通りいきいきと学生生活を送り、グローバル社会に貢献できる人材に育てて欲しいという思いから創設した。

「成績優秀者奨学金」は、入学後2年間の成績が優秀であることを評価し、さらに今後も努力を続け、新学部であるグローバル・リベラルアーツ学部においてリーダー的な存在として活躍して欲しい学生へ支給する。

	GLA Freshman Scholarship ＜特待生奨学金＞	GLA Outstanding Scholarship ＜成績優秀者奨学金＞
目的	入学試験の成績優秀者に支給することで、優秀な学生の確保に寄与	入学後、優秀な成績をあげた学生を顕彰（留学経費の一部を支給）
対象要件	共通テストプラス入試ならびに、共通テスト利用入試〈前期〉（2科目型を除く）の成績優秀者でGLA学部にふさわしいと認められた者	2年次終了時点で成績優秀（GPA3.0以上）な学生で「特待生スカラシップ」の対象者を除く

対象者数	6名以内	6名以内
奨学金額	100万円	100万円
支給時期	1年次(6月頃)	3年次(6月頃)

3. キャリア支援の取組について

(1) キャリア教育

本学部における教育課程内の取組として、以下2つの授業科目、「キャリアデザイン (GLA)」(1年次後期)と、「グローバル・キャリア」(3年次前期)を必修科目として開設している。

① 「キャリアデザイン (GLA)」(1年次後期必修)

本科目は、外部環境(国際政治、経済、社会、技術革新)や労働環境(新卒・転職・起業)を理解したうえで、大学進学後の進路(ゴール)とその道筋(パス)を考えていくための授業である。グローバルな舞台でグローバル・リベラルアーツ学部での学びを活かすにはどのような仕事があるのか。多国籍の人々が集まる組織ではどのような英語力が求められるのか。外国人と一緒に仕事をするために必要なことは何か。仕事と家庭・子育てをどう両立させるのか。おカネとどう向き合えばいいのか。講義やグループディスカッションを通して「人生100年時代」を見据えた仕事と人生について考えるとともに、グローバル人材としての資質も身に付けていく。外国人と英語で仕事をするための準備講座という性格上、授業は英語と日本語を併用する。

② 「グローバル・キャリア」(3年次前期必修)

本科目では、グローバル化する社会で自分のキャリアを確立し、世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちの事例から、自己流のキャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいく。また、現在の自分と彼等プロフェッショナルとの比較を通じて、自己を客観視する力を身に付けるとともに、自身が描く卒業後のグローバル・キャリア像に対する課題を抽出し、アクションプランを立てることで、3年次後期の長期海外留学での実践に繋げていく。講義は英語と日本語を併用する。

(2) キャリア形成支援

本学部において養成する人材像は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に次のとおり定めている。

- (1) 多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4) 論理的かつ批判的な思考力

- (5)社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6)異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成する事を目的としている。

本学部におけるキャリア形成支援について、「設置の趣旨等を記載した書類」に「(2) 教育課程外の取組」として次のとおり記載している。

この養成する人材像に基づき、社会貢献に力を入れて取り組む企業、国家公務員(外務省など)・非営利団体(JICA や国際交流基金など)及び国際公務員(国連事務局、国連開発計画など)の3つのキャリア(進路)に対し、効果的に学生を輩出すべく、本学部、キャリア教育センター、そしてキャリア教育委員会の3組織からなる支援体制を構築する【資料16】。

また、「動機付け」、「選択」、「専念」からなる3つのキャリア形成フェーズを設定し、各フェーズにおいて独自のキャリア支援を促すことで、さらに効果的なキャリア支援が可能になるものと考えている【資料17】。

① 第1フェーズ:「動機付け」(入学前から1年次まで)

キャリア・アドバイザーやメンターとの接触を通じ、早期から学生に3つのキャリア領域を意識づける段階である。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア形成への意識付けを目的とした「入学前スタートアップセミナー」及び「入学時オリエンテーションキャンプ」(全員参加)
- ・キャリアを見据えた4年間の学修・学生生活をサポートする「担任制度」の導入
- ・社会起業家やCSV(Creating Shared Value:共通価値の創造)企業、あるいはJICAや政府機関などによる「キャリア講座」、「キャリアセミナー」の実施(全員参加)

② 第2フェーズ:「選択」(2年次)

卒業後のキャリアを具体的に選択する段階。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア領域で活躍している現役社会人などによる「社会人ゼミ」の実施・3つのキャリア領域における「インターンシップ」などの実践機会の提供。

③ 第3フェーズ:「専念」(3年次から4年次)

卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階(特に長期留学帰国後の3年次2月~3月の期間を利用する予定)。具体的な取組は以下のとおり。

- ・履修モデルを参考とした科目履修の推奨
- ・スキルアップ・キャリア対策講座(「PCスキルアップ講座」、「公務員対策講座」、「在外公館派遣員勉強会」、「大学院進学セミナー」など)の実施

以上のキャリア形成支援計画に基づき、2020年度に計画又は実施した内容は次のとおり。

(1) 第1フェーズ

当初の計画から若干の変更点もあるが、ここまでの進捗状況は、概ね順調に進展しているといえる。

第1フェーズでは、早期から学生が3つのキャリア領域を意識しながら、将来、学部での学びを活かして活躍できる進路目標を1年生の終わりまでに自ら定められるようになるために必要な情報を与えていくことを到達目標として定め、学生にキャリアに対する動機付けを芽生えさせる取り組みを行っている。

① 入学前スタートアップセミナー

当初は入学前の早いうちからキャリアに対する動機付けを高める取り組みとして、入学予定者を対象にした入学前スタートアップセミナーの開催を検討していた。しかし、入学手続きの時期が異なる学生全員を一堂に会することの難しさや、入学時オリエンテーションキャンプとの差別化が図りにくいこともあり、今年度については実施を見送った。

② 入学時オリエンテーションキャンプ

本学部では、学生の進路として3つのキャリア領域を想定していることは前述したとおりであるが、学生のキャリアに対する動機付けを高めるにあたり、学部が掲げるキャリア領域と学生が期待する進路との間に差異が生じている場合は、学生に対する支援が最大限の効果を発揮しないことが懸念された。そこで、学生が進路をどのようにイメージしているのかを把握する目的で、入学時オリエンテーションキャンプにおいて、1年生を対象に「キャリアプランアンケート」を実施した。アンケート結果では、進路をイメージして入学している学生が約50%いるのに対して、「まだ決まっていない」と回答した学生は27.1%であった。本学部への進学にあたって、既に具体的に3つのキャリア領域を意識できている学生がいる一方で、将来の進路を描けていない学生が一定数いることがわかった。

また、オリエンテーションキャンプではキャリアガイダンスの時間を設けて、キャリア教育センター長 柴田真一特任教授から、「人生100年時代」にどのようにキャリアをデザインしていく必要があるのかを主題に、学部で目指すべき3つのキャリア領域を紹介しながら、グローバル社会を取り巻く環境やその中で求められる能力について説明を行った。ガイダンスを終えた学生からは「海外に出て地球のために活躍したい。」という発言がされるなど、意識の高まりがうかがえる結果となった。

③ 担任制度の導入

学生の学修・学生生活をサポートすることを目的に本学部の教職員で構成されるアドバイジングチームにキャリア教育センターの職員2名がメンバーとして加わり、常時、学生の進路選択での不安を取り除ける体制を整えている。

④ 3つのキャリア領域を想定した講座・セミナーの実施

学生が早い時期から3つのキャリア領域について考える機会を提供することを目的に各種講座・セミナーの開催を予定している。

実際に働く人から直接話を聞くことで、将来の職業選択に役立てたり、目標とする進路に向けて、どのような学生生活を送る必要があるのかを考えたりする機会に繋がる。

2021年度の前期に予定している講座は以下のとおりである。

【2021年度前期開催講座・セミナー】

5月18日（火）Teach For Japan フェローシップ・プログラム説明会

6月2日（水）公務員ガイダンス

6月14日（月）国際大学大学院説明会

6月15日（火）ボードレス・ジャパン社会起業家セミナー

7月12日（月）Teach For Japan 会社説明会&サマーインターンシップ

また、後期には外務省国際機関人事センターの担当者を招き「国際機関で働くとは？ - 国際機関の役割・職員の仕事について -」と題したセミナーや次年度より開講する公務員試験対策講座のプレ講座として、SPI対策講座、SCOA対策講座の開催を企画している。SPI対策講座では人事院や独立行政法人国際協力機構などの方から業務説明が聞ける機会を設ける予定である。

(2) 第2フェーズ

当初の計画から若干の変更点もあるが、ここまでの進捗状況は、概ね順調に進展しているといえる。

第2フェーズでは、学生が卒業後のキャリアを具体的に選択し、目標進路に向けて残り2年間の学生生活の行動計画を描くことを到達目標として定めている。

① 社会人ゼミの実施

当初3つのキャリア領域で活躍している現役社会人による「社会人ゼミ」の実施を想定していたが、学生一人ひとりと向き合い、豊富な社会人経験に基づく、学生が納得できるキャリアを目指すヒントを授けられるよう面談に重きを置いた形式に変更することとなった。また、実施形態の変更に伴い、改めて制度が目指すべき方向性についても再度検討を行った。

学生自身が3つのキャリア領域に就くために、どのような学生生活を送る必要があるのかを考えることは、教育課程内での学びを通じて実践できることはいうまでもない。しかし、兎角キャリア教育においてはキャンパスの時間の流れの中でのアドバイスになりがちであり、本学部の特性、そして3つのキャリア領域への進路選択を視野にいれたとき、入学時にスタンダードだと考えていたことが卒業時には変化している可能性も考えられる。そこで、日々、社会の最前線で仕事に向き合う社会人を「GLA キャリア・メンター」として迎え、今日の変

化を学生に伝えることで、学生がより進路に対するイメージを具体的に描けるよう支援する「GLA キャリア・メンター制度（以下「メンター制度」という。）」を設けることにした。メンターは面談をとおして、親身なアドバイスを繰り返すなかで、学生が自らの進路を切り拓けるよう成長を促すことを使命とする。

GLAキャリア・メンター制度

■ 仕事内容



カウンセリング

学生がキャリアをデザインするなかでの悩みや、心配していることを聞き、具体的なアドバイスを送るなど、フォローに努めます。自身の成功体験や失敗体験を語ることでロールモデルとなったり、企業での人材育成の経験を活かしてコーチングしたり、豊富な社会人経験を基に学生のカウンセリングを行います。



インセンティブモデル

カウンセリングやセミナー、募集広報を目的とした高校生対象の講座などをおして若者が目標を達成することやキャリアをデザインすることへの喜びを共有し、希望する進路を順調に歩めるようモチベーションアップの維持を図ります。「こんな社会人になりたい!」と思わせる人間的な魅力が求められます。



セミナー等の講師

セミナー等をおして、社会の最前線で活躍するビジネスパーソンとしてのものの見方や考え方を伝えることで、学生が自身のキャリアをデザインする機会を提供します。また、学生が希望のキャリアで活躍するために必要な力を身につけるための支援を行います。

② 3つのキャリア領域における「インターンシップ」の提供

新型コロナウイルス感染症の感染拡大・防止に伴い、企業も次年度以降のインターンシップの実施計画が立てられていない状況が続いている。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら検討を行っていく。

V. 管理運営の取組

1. 情報公表の取組について

(1) 情報公開

本学部における情報の公表について、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172の2第3項の規定に基づき、教育研究に関わる公的な機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育研究活動の質の向上を図り、成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することであることを認識していることから、積極的にその成果等を公表している。

情報公開の方法は、主として学内外からのアクセス及び最新情報の更新が容易なホームページ上での公表を基本とし、その他対象者に応じて紙媒体等で情報を公表している。

(情報公表一覧) <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

なお、ホームページは各ステークホルダー（在学生、受験生、卒業生、保護者、一般・企業の採用担当者、一般市民）に対してコンテンツが分類されており、それぞれのステークホルダーが欲しい情報が容易に参照できる工夫がなされている。本学部においても各々のステークホルダーが求める情報とともに、本学部の教育研究活動にかかる公表事項をホームページ上に掲載することで、適切な情報発信に努める。

以上の情報の公表計画に基づき、本学Web上で情報を公開している。

また、今後は学生の声や学習の様子も随時、掲載していく予定である。

- ・動画でみるグローバル・リベラルアーツ学部

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/gla/movies/>

- ・GLA 学部一期生インタビューを公開

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/153122/>

(2) オープンキャンパス、セミナー等

日程	実施事項	内容	備考
5月24日(日)	オンライン説明会	GLA 学部概要・入試制度説明	
6月21日(日)	GLA 特別セミナー (オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：Quality Education for All 21世紀の学びとは 開催	オンライン説明会同日開催

7月11日(土)	オンライン説明会	GLA 学部概要・入試制度説明	
7月19日(日)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：社会における多様性と共生 開催	18日(土)、19日(日) オンライン説明会開催
7月26日(日)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：外国語を学ぶよるこびとは 開催	25日(土)、26日(日) オンライン説明会開催
8月2日(日)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：大学における知の探究 開催	1日(土)、2日(日) オンライン説明会開催
8月23日(日)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：グローバルに生きるとは 一留学の意味について考えるー 開催	22日(土)、23日(日) オンライン説明会開催
9月19日(土)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：GLA 学部の学び 開催	オンライン説明会同日開催
10月17日(土)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：GLA 学部の学び② 開催	オンライン説明会同日開催
12月19日(土)～20日(日)	GLA 学部特別セミナー(オンライン)	GLA 学部特別セミナー「世界はいま～グローバルな課題について考える～」 テーマ：GLA 学部の学び③ 開催	19日(土)、20日(日) オンライン説明会開催
3月26日(金)	GLA 学部オンライン説明会	GLA 学部概要・入試制度説明	
3月27日(日)、29日(月)～31日(水)	キャンパス見学会	GLA 学部概要・入試制度説明	

このほか本学部では、これまでの語学を学びたい高校生では無く「語学を使ってどう世界で活躍するか」を希望する高校生への訴求の為、下記のイベントを実施した。

<2020年9月10日(木)実施>

神田外語大学×東洋大学×法政大学×明治大学

4大学合同グローバルイベントスーパーセッション



総視聴回数 2,259 回

<2020年12月5日(土)、6日(日)実施>

神田外語大学×ICU Online Joint Live!

どうなる?New Normal時代の「留学」「グローバル」「リベラルアーツ」



主催：株式会社E&S教育社
 共催：株式会社ケイオウ大学センター
 TEL:03-5425-0200



総視聴回数 2,489 回

2. 教育内容等の改善を図るための取組について

(1) 自己点検・評価

本学における自己点検・評価の取組について、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

(1) 実施方法など

本学では、学則第1条の2に「本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う」と定めている。2012年以降は、同点検・評価を通して明らかになった改善点を中期経営計画に落とし込み、PDCAサイクルにより、改善・改革に取り組んでいる。

自己点検・評価項目は、「神田外語大学質保証・質向上に関する規則」第5条に次のとおり定めている。

- ・ 使命、目的及び教育目的
- ・ キャリア支援
- ・ 教育課程
- ・ 学生支援
- ・ 学生の受入れ
- ・ 施設・設備及び環境
- ・ 教育研究組織及び教職員
- ・ 管理運営
- ・ 内部質保証
- ・ 前各号に掲げるもののほか、質保証・質向上委員会が適当と判断する重要事項

(2) 実施体制

学内に、自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関する業務を統轄する質保証・質向上委員会を設置している。教職員一体となった全学的な取組を担保するため、同委員会の構

成員は、副学長、学部長、研究科長、附属図書館長、各学科の主任、教養教育運営部会長、各分野長、教務委員長、事務局長、大学改革室長及び学長が指名した者となっている【資料12】。

(3) 第三者評価

本学は、2005年度及び2012年度に引き続き、2019年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による第3回目の認証評価（第三者評価）を受審し、同機構が定める大学評価基準に「適合」しているとの評価を得ている。実施にあたっては、自己点検・評価同様に、質保証・質向上委員会が行い、その事務は総務部で行うこととしている。

以上の自己点検・評価の取組に基づき、本学部では、7年に一度実施する外国語学部を含めた全学の自己点検及び第三者評価（実施は質保証・質向上委員会）の取組とは別に、設置前年度（2020年度）から完成年度（2025年度）までの5年度にわたり、以下の自己点検・評価項目に基づき、各年で実施することとした。初回となる2020年度自己点検・評価は2021年4月から8月にかけて実施し、その実施体制は大学改革室及びGLA学部運営委員会が行ない、本報告書を大学ホームページで公開することとした。

- I. 理念・目的
- II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組
- III. 教育課程編成の取組
- IV. 学生支援の取組
- V. 管理運営の取組

(2) FD委員会

本学における教育内容等の改善を図るための組織的な取組みについて、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

本学では、「神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則」に基づき、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」を設置し、PD(Professional Development)活動の組織的な実施に努めている（本学では、FDをPDと称す）【資料13】。同委員会は、副学長3人（うち1人が委員長）、各学科主任、各研究分野長（言語研究分野・総合文化研究分野・コミュニケーション研究分野・地域国際研究分野）、教務学監、大学院研究科長、ELIディレクター、SALCディレクター、PDワーキンググループメンバー6人（ELI所属教員を含む）、関連部署の職員で構成されている。2020年度PD委員会は、最低4回の開催を予定しており、PDワーキンググループは定期的にメンバーを招集し、PDの企画・調整を行う予定である【資料14】。本学部のPD活動は、学部長（兼副学長）が中心となり、全学的な取組としてのPD及び本学部独自のPDを推進する計画である。特に本学部が目指すアクティブ・ラーニングによる授業、及び感染症拡大の影響によるオンラインでの効果的な授業手法について、今年度から専任・兼任教員を対象にPDを行う計画である。またこれまで外国語学部（全学）を対象とした以下のPD活動についても、PD委員会が運営のもと、本学部でも実施する。

(1) 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

「教務委員会」が中心となり、各学期末に、基本的に全開講科目を対象として、学生に「授業評価アンケート」を実施している（教育の質保証への学生の参画）。同結果は各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

(2) 教職員による授業参観

再任審査対象（テニユアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。当該授業科目を管理する教学組織（学科、専攻、「研究分野会議」、「教養教育運営部会」等）の教員が、複数名で授業参観を実施し、その結果をフィードバックして授業改善に役立てている。また、2012年度からは職員による授業参観も行っており、終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザベーションレポートを提出している。

(3) PD 講演会

言語教育研究所が主催する「Bag Lunch Seminar」は、PD 講演会の一環として行われており、開学以来、延べ 200 回近い開催実績がある。このセミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELI コンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されており、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。このほか、きめ細やかな学生支援に欠かせないメンタルヘルスに関わる基礎知識やカウンセリング手法を学ぶ研修会（メディカルセンター主催）や、研究資金を獲得するうえで欠かせない研究力の向上に資するセミナー（学術・研究支援部主催）などを実施している。

(4) 奉職時（入職時）研修会

本学教育職員としてのキャリアを円滑にスタートできるように、専任の新任教員（参加義務）及び非常勤教員（任意）を対象に、理事長・学長の講話、テニユアになった教員による対談及び事務局説明を行う。また、1月下旬を目途に、着任後に生じた課題等についてテニユア教員と対話ができるフォローアップ研修会を実施する予定である。

以上の教育内容等の改善を図るための組織的な取組みに基づき、2020年度におけるFD委員会の取組は以下のとおりである。

① 実施体制

a. 委員会の設置状況

全学委員会として、神田外語大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置。

b. 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は、副学長、研究科長、学部長、各学科長及び各専攻長、教務委員長、教養教育専門部会長、教育研究に関わる学内附属機関所属教員のうちから学長が指名した者、事務局長及び学長室ゼネラルマネージャー、その他学長が指名した教職員により構成され、年5回開催。

c. 委員会の審議事項等

委員会の審議事項は、FDに関する研究・企画運営、情報収集及び教育機関との連携、活動の報告に関することとしている。

② 実施状況

a. 実施内容

ア 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

イ 教職員による授業参観

ウ FD 講演会

エ 入職時研修会

b. 実施方法

ア ③に記載

<p>イ 再任審査対象（テニュアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。また授業建学として、教職員が他の教員の授業を見学し、お互いから学び合うFD・SDも実施。</p> <p>ウ オンライン授業のグッドプラクティス（事例紹介）や授業実践に係るセミナーが中心となる。</p> <p>エ 専任の新任教員（参加義務）を対象としている。</p> <p>c. 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>ア ③に記載</p> <p>イ 授業参観については、対象者36名を実施。授業見学については、授業公開教員数33名、公開科目数63科目、見学者数は延べ219名。</p> <p>ウ オンライン授業のグッドプラクティスを共有するFDセミナーを2021年1月20日実施。118名の教職員が参加。また、LMS（本学はGoogle Classroom）、Zoomの利用・活用方法に関するFDサイトを4月より公開。非常勤教員を含め、関連サイトに1万3千回以上のアクセスあり。</p> <p>エ 昨年度コロナウイルスの影響で実施できなかった昨年着任の教員を含めた計17名の新任専任教員に対し、理事長・学長の講話、テニュアになった教員による対談及び事務局説明、学内の施設見学を実施。</p> <p>d. 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>ア アンケート結果を各担当教員にフィードバックすることにより、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。</p> <p>イ 教員による授業参観は、その結果をフィードバックして授業改善に役立てているほか、職員による授業参観終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーションレポートを提出している。</p> <p>ウ セミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELIコンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されている。また、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。</p> <p>エ 本学教育職員としてのキャリアの円滑なスタートに資している</p>
<p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p>
<p>a. 実施の有無及び実施時期</p> <p>FD委員会の協力の下、「教務委員会」が中心となり、各学期末に全開講科目を対象として、「授業評価アンケート」を実施。</p> <p>b. 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>アンケート結果は、各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証している。</p>

3. 管理・運営体制について

本学部の管理・運営体制については、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部においては、上記の各種委員会のうち、教学の重要事項を審議する学務審議会の構成員となるが、学部の特異性と学生数を踏まえ、外国語学部と共通の全学委員会（例えば、「学生委員会」、「キャリア教育委員会」、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」、「入学試験委員会」等）と学部独自で運営するもの（例えば、「教務委員会」、「国際交流委員会」等）とで構成する計画である。

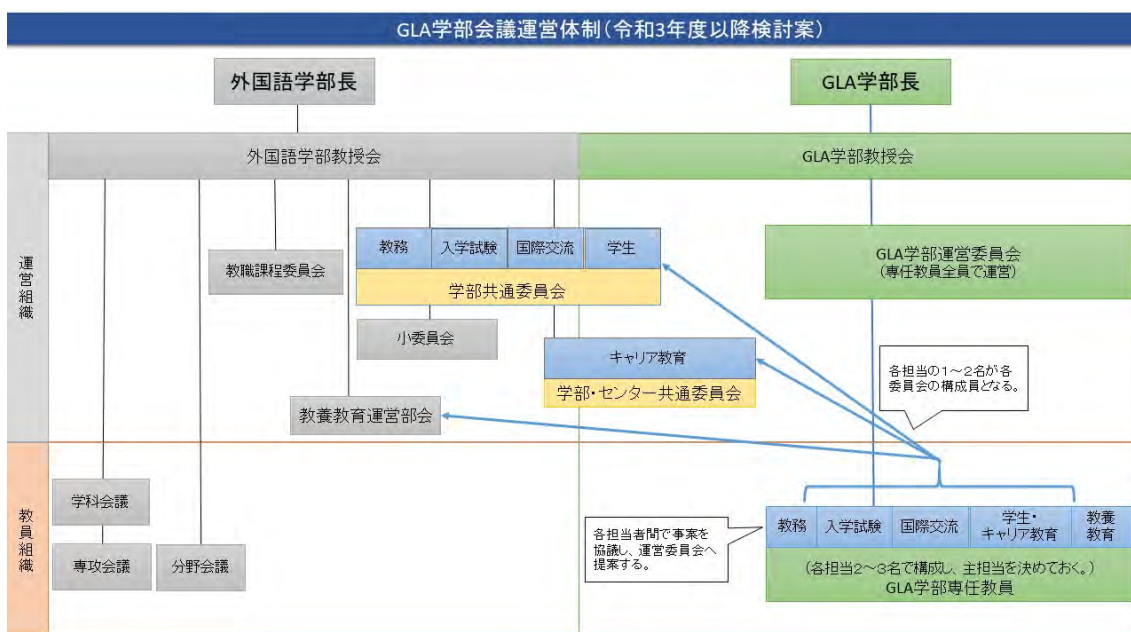
以上の管理・運営体制に基づき、2020年度において、次のとおり教員組織と本学部の管理・運営体制を整えた。

本学ではこれまで外国語学部 1 学部であったところ、本学部の設置に伴い学内の運営体制を次のとおり見直した。

教授会については、新たにグローバル・リベラルアーツ学部教授会を置くこととし、同学部の教務や学生などの委員会機能については、個別の教員による担当制として審議・検討する組織として「運営委員会」を設置することとした。

各学部の運営状況について相互に理解を深める図る観点から、入試、教務、キャリア教育、紀要委員会及び教養教育運営部会については外国語学部と共通の委員会として設置することとした。

また、同様の趣旨から、FD、国際交流、学生委員会については両学部と研究科の共通委員会として配置することとした。



4. 施設・設備について

本学部設置に伴う研究室・教室等の施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(2) 校舎等施設の整備計画」に次のとおり記載している。

教室の確保については、本学部新設に伴う定員増は行わないことから、2019年度における教室数に対する曜日・時限ごとの教室使用状況により、新学部稼働後も充足すると見込んでいる【資料6】。このことから、校舎の新築は行わず既存校舎（3号棟）の改修によって、本学部のため、60人の教室1室と30人の教室2室を確保する。また、一部使用が集中する状況にある曜日・時限については、教員の協力を得て調整を行うなど改善を図っていく。

3号棟の一部改修により、新任教員の研究室、及び共同研究室を新たに設置することで、教室のほか、学部所属の専任教員に対する研究室及びそれをサポートする事務体制も十分確保できると考えている。

また、国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とする本学は、コミュニケーション能力、問題解決力の養成にも力を入れており、2003年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されたSACLAを発展させたSALC(Self-Access Learning Center)、ELI(English Learning Institute)等の本学が先進的と自負する自立学習施設を整備し日夜充実に取り組んでいる。同時にこれらの能力育成に資するため少人数教室においても、学生用にアクティブ・ラーニングに適する可動型の机椅子の導入を進めている。

(1) 教室等の整備・充実

以上の研究室・教室等の施設・設備計画に基づき、教室の確保については、本学部新設に伴う定員増は行わないことから、校舎の新築は行わず既存校舎（3号棟）の改修により、本学部の目指す平和のために国際領域で活躍できる人材を育てることに狙いをおいて施設を整備して行くこととした。

そのため、「自ら体験し」、「問いを立て」、「自ら学び」、「仮説を立て」検証して行く、と言う生涯の学びのサイクルを実践するための学習環境として、「GLA Commons」の新設計画を進め、2021年4月から稼働を開始した。

「GLA Commons」は、教室でもあり、Learning Commonsでもある、今までにない全く新しい施設である。10数名から100名程度の授業に対応できること、新しい教育方法にふさわしい施設となることが、重視された。特に、従来の受動的な教育・学習ではなく、能動的に考え行動することを促し、教室という境界をなくしあらゆる場所を学びの場所とし、自分たちの手で作りこんで行くことができる環境であることが目指された。

「GLA Commons」は、中廊下を挟んで、教室や研究室が並ぶ、典型的な学校施設である既存建物を改修する形で作られた。まずは天井や間仕切り壁をすべて撤去し、バルコニーも内部化することで、できるだけ広い空間を確保した。そして、ワンルームの空間の中に、床のレベル差や様々な高さの腰壁をつくることで、フレキシブルな学習の場と、居心地のいい居場所をつくることを試みた。腰壁で緩やかに囲われた中央のスペースは、カーテンと可動什器によって、様々

な形式、規模の授業に対応できるようになっている。腰壁には、ベンチやカウンターなどの家具を一体化させることで、止まり木のように自然と人が集まるようにした。外周部は、回遊性のある動線空間であるが、腰壁と一体化された家具や、レベル差を活かした設えによって、バリエーション豊かな居場所が点在している。既存の廊下や階段も、動線空間としては比較的ゆったりしていたので、単に人が行き来するだけでなく、ちょっとした居場所や、コミュニケーションが起こるような仕掛けを施した。また、オープンな空間とは対照的に敢えて閉鎖的なスタジオも設けることで、それぞれの空間をより活用できるようにした。

また、共同研究室・研究室も新設を行い、学生の活動に近い場所で支援を行える体制のための施設を、2021年4月から稼働させている。

GLA Commons (3-250) 模型写真



また、本学部の学生に向けて、「2021年度学生便覧グローバル・リベラルアーツ学部」において次のとおり案内している。

X GLA Commons について

3号館2階に、本学部における教育・学習の中心的な場所として、GLA Commons (3-250) を設置しています。

オープンスペースとしても、カーテンの仕切りで区切っても使える空間であり、授業の性質・用途に応じて様々な形態での活用が期待されます。日々の空間内の分けについては、GLA Commons 前に掲示します。この利用にあたっては、GLA Commons 内共同研究室の職員の指示に従ってください。

このスペースでの特色は以下の通りです。

- ・オープンな空間の中に様々な特徴的な場所が存在し、目的に応じて活用できる。
- ・可変性の高い空間で、よりアクティブな使い方ができる。
- ・授業の場であり、学生の日常の居場所でもある。
- ・本学部だけでなく他学部の学生、教員でも、コンセプトに共感する人であれば使うことができる。

利用にあたっては、以下の理念についてご理解ください。

ACTIVE

- ・アクティブ・ラーニングにふさわしい空間
- ・従来の受動的な教育・学習ではなく、能動的に考え、行動することを促す空間
- ・新たな課題や問題に対して、よりアクティブにチャレンジしていく姿勢が身につく空間

BORDERLESS

- ・教室という境界をなくし、あらゆる場所が学びの場所となる空間
- ・利用者や使い方を限定しない、開かれた空間
- ・建物やキャンパスを超え、広く世界を意識することができる空間

CANVAS

- ・自分たちの手で作りこんでいくことができる空間
- ・持続的に使い方や活用の仕方を発見していくことができる空間
- ・そこにいる人、そこを使う人が主役になる空間

(2) 設備・図書等の整備状況

本学部設置に伴う図書等の整備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に次のとおり記載している。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要となる国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of Law in Context」、「Cultural Studies」などの導入を予定している。

以上の図書等の整備計画に基づき、2020年度において次のとおり整備した。

これまでに検討された図書（電子書籍含む）、雑誌（電子ジャーナル含む）、データベースの購入および契約を進め、2021年4月から学生や教員の利用に供せるようになっている。

図書は、和書 366 冊、洋書 43 タイトル（電子書籍）を揃え、インターネット上に公開されている本学の蔵書検索システム（KUIS 総合資料検索）により既存の蔵書と合わせて検索でき、電子書籍はそこから直接閲覧も可能である。

雑誌は、和雑誌 2 タイトル、洋雑誌 7 タイトル（電子ジャーナル）を年間購読として契約した。

データベースは、当初の予定通り、「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」の 2 つを契約しアクセス可能となっている。

今後、データベースや電子資料に関しては図書館運営委員会などを通じて、教員への案内や説明会を実施して授業での利用促進を図っていく。また、年次計画として、関係分野の資料の継続的な整備を進めていく計画である。